

毎日歌壇

水原 紫苑 選

残された葡萄ひと粒 人はまだ死なんてものを信じているのか 東京 境 千尋

△評▽死を否定してみせるレトリックは種の禁じ手だが、このブドウのイメージと重なる読者をひきつける魅力が生まれる。

六月の熱をこらへて立つ少女ひとの形をしてゐるきみよ さいたま市 青木 喩

△評▽これぞうなデリケートな歌はいつもはできない。作者にとって貴重な時間。

クジラには地球の海は狭すぎて夜空を泳ぐ夢を見ている 倉敷市 中路 修平

夢のなかでセックスをした人に会う 爪に銀河を宿すだなんて 千葉市 星野 珠青

トルンにはころしかなく恋しさを訴へられぬその怒りさへ 名古屋市 浅井 克宏

暗がりでおどけましようよ、オレンジの中も腐っているんだからさ 岡山市 松井 度

さっきまで蕾であった後悔が鮮やかな花咲かせて朽ちる 兵庫 廣澤 真希

何もかも滅んでいいと思ったら家電はぬいぐるみよりあたたい 東京 遠野 鈴

あの世という新天地にて馴染めるか今から不安人見知りゆえ 横浜市 友常 甘酢

海風の抗議を一時聞かずに僕は私のルールを変える 四日市市 早川 和博

伊藤 一彦 選

皆逃げてしまった部屋を悠々と自由気ままに飛びまわる蜂 北名古屋市 月城 龍二

△評▽ありうる場面を巧みに詠んで面白い。が、現代の様々な組織や国家をくう意で歌った作として読めばどうか。鋭さが光る。

紫陽花を集めて浮かべた花手生まれた場所など関係なくて 岸和田市 ツキミサキ

△評▽見た目に美しい花手水だがアジサイは幸せか。下の句に作者の考えが出ている。

古古米も古古古古米も早口に口が回らず笑ってしまふ 桜川市 海老原順子

愛猫の話をするれば「幸せね」と静かに笑う施設の母は 春日市 伊藤 亮

欲しがっているほうが負けそんなこと後輩に説くきみが眩しい 東京 富見井高志

ブライドがみるみるルールになる社内 残業代はいらないと言う 東京 藤沢 静二

増えていくアプリに窒息しちゃうかも推しの笑顔を今助け出す 宮崎 門田 藍子

図書館で毎週火曜日に会う人のなぜか気になる生活パターン 倉敷市 中路 修平

数年の年の差だけ高い壁で世代とわたしの間に 相模原市 榎本 ハナ

張本は杖で江夏は車椅子長嶋遊きて昭和も遠し 吉野川市 喜島 成幸

米川千嘉子 選

亡き友の娘さんが明日うちに来る手紙選り出す来信の箱 生駒市 奥田 充子

△評▽どんな手紙を選んで、亡き友の思い出を娘さんに伝えようか。娘さんに渡す手紙もあるかも。思いの深い交流だ。

絵画展を見つめるセラニウムお願いだから本音はやめて 三重 中山由賀子

△評▽鮮やかなセラニウムの絵。曖昧さやごまかしを許さない、というように。

古古米にとっても可愛い響きあり黄色くなってもヒヨコのように 仙台市 石川 初子

葉のごとく受け止められずこの手では形をなせぬ悲しき雨滴 五島市 佐々木泰三

子を産みて育てる事はわために「趣味」と言ひたし楽しきものぞ 坂戸市 納谷香代子

孫と犬の名を間違えし吾なれど愛ほしきものに分け隔てなし 千曲市 中村 美樹

商店のちらしの告げる父の日の父を愛せぬわが罪を問ふ 武蔵野市 八田 絵砂

身長を測るつもりが体重も測られていたような面接 長岡市 三月 とあ

「元氣かな」「次いつ来るの」「元氣です」日々弱くなる母の筆ペン 始良市 井之川健児

伸子張り掃除洗濯で飯炊き子供ながらに鰯の手開き 神戸市 村上 幸子

加藤 治郎 選

本当はもう答えなんて出ているふたりで歩く遠浅の海 川崎市 新井 将

△評▽破調だが5777と読むと独特の57のリズムが生まれてくる。ふたりの悲しい答えが思われる。下句美しい情景だ。

湯船からお湯がザッと溢れ出す時だけ感じる我が存在感 広島市 堀 真希

△評▽身体感覚が全開のとき存在感が感じられる。共感できる湯船の場面である。

玄関に季節の花を置いていた母は自分だけの部屋がない 東京 葉山 あも

一輛で走る電車はどこへ行くのんびり見えて新緑の山 神戸市 小林 照明

肉体は私を容れる箱なのになびたびとオーバースペックになる 東京 藤沢 静二

何者にもなれずじまいの私にも子猫を癒す魔法の手がある 岐阜市 山上 秋恵

異次元を見ているのかな青い空飛行機雲の白線二本 町田市 岡 良

ふとひかりを見失った春の日にふたたび目覚めた傷痕 めまい 四万十市 佐竹 紫円

白木樫咲いてる道をただ歩く君の歩幅が僕の青春 北名古屋市 月城 龍二

真っ白な便箋のようにシツ貼る「前略、痛みよ飛んでいけ」 仙台市 石川 初子

毎日新聞からのお知らせ

ネット投稿 毎日IDが必要に

本日正午から毎日新聞デジタル経由で歌壇・俳壇に投稿するには毎日ID(登録無料)でのログインが必要となります。ログインすると登録した名前や住所などが投稿

フォームに自動で反映され、便利になります。筆名(ペンネーム)での投稿も可能です。ネット投稿は1週間(月曜0時~日曜23時59分)に1回、はがき同様2作品までとします。同じ週に2回以上投稿すると最後の投稿のみが有効となります。これまで通り、はがきでも受け付けます。

毎日IDの登録ページは<https://mainichi.jp/signup/accounts/free/signup/>。